

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社理念「コミュニケーション」と「生活リハビリ」施設目標「個人のできる事を尊重し日常生活に生かせる場所にします。」を掲げて共有と実践をしています。	理念については毎月の職員会議にて、時折代表者から話がされています。日常業務の中では、本人のできることを大事にして、一呼吸おきながら見守るように職員間で確認をしています。また、朝食前やお茶の時間には、少しの時間でも担当者が話題を提供するなどして、皆で話をすように心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響で地域行事が行われなくなり参加は出来ていませんが、近隣の方々にお花や野菜、果物をなどを頂きます。	今まで参加していた行事がコロナ感染防止のため中止となり、交流の機会が少なくなっています。日常的には、近隣の方から地元の季節の野菜や花、りんごジュースなどいただいています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は、短大生の研修の受け入れを行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況、サービス提供、健康状況、苦情、事故状況、収支報告等を報告しています。今年度2回目になりますが、コロナ禍の影響で会議が開けず書面にて状況を郵送し、回答、意見を頂きました。	偶数月に定期的に開催して、入居者やホームの状況、ヒヤリハット・事故の状況等報告をし、意見や要望を聞いてサービス向上に活かしています。コロナ感染防止のため開催できない月には、資料を送り意見等を文書でもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は運営推進会議開催が少なかったもので、書面にて意見や感想を頂きました。又、代表者が市町村担当者のもとに度々出向いたり、メールなどで情報交換をしています。	運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員からアドバイスをもらっています。グループホームも含め組織全体の運営等に関して、必要に応じて市町村と情報交換を取り協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修やミーティングを通じ、身体拘束の具体的な行為を理解し、実践しています。	「身体拘束排除宣言」をグループホームとしておこなっています。身体拘束11項目に関して職員に感想を聞き、転倒を防ぐ方法を検討する、スピーチブロックの声かけ等、具体的な事例を挙げて研修するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修やミーティングを通じ、虐待の具体的な行為・関連法を理解し、実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を利用している利用者はいませんが、社内研修を通して理解し、共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には見学して頂き、理解・納得して頂いて契約できております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を通じて利用者代表の方などに参加いただき、意見等頂いています。又、家族の訪問時、個々に随時意見、要望等を受け入れています。	運営推進会議の中で利用者代表が参加されており、意見を聞いています。また、お便りを送付した際や面会時に、意見・要望を聞いています。面会の希望・外出の機会を多くしてほしい等の意見もあり、コロナ感染防止や天候等考慮しながら、日曜日の午後に散歩やレクリエーションをするなど工夫しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、開設者が参加する全体会議を行い、意見等出し合い、話し合う場を設けています。又、個々に代表者に相談が出来る環境にあります。	毎月の全体会に代表者が参加しており、意見や要望を出せる場で物品購入や人員についての希望を出しています。最近では、大きな物品を購入でき日常業務に活用しています。又、年1回代表者と面談する機会が設けられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めていると理解しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	4月、10月と職員の異動があり、社内研修表を作成し行っています。初任者研修、実務者研修、認知症実践者研修を、出勤扱いで受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新規開設事業所の見学や研修に参加して、他事業所との交流を図っています。今年度はまだコロナ禍の影響で行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前には本人との面談を行い、不安や要望をお聞きし、見学してから入所して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族と面談を行い、不安なこと、要望等をお聞きしスムーズに入所して頂いています。信頼関係も時間の経過とともに出来ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い、入居前のケアマネさんと連絡を取り相談させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事(洗濯物干し、たたみ、掃除)等一緒に行いながら、家族のような関係に少しでも近づける様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常日頃から連絡を取りながら、ともに支えていく関係は築けています。電話や手紙で直接ご家族に要望を伝える方もいます。その都度対応して下さる家族がほとんどです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からのかかりつけ医に受診をしている方、ご家族も開所から9年が経過しますが、面会に来たいと言われる方が殆どです。コロナ禍でガラス越しにはなりますが会いに来られます。又、定期的に日常の様子を文章にて送っています。	県外の家族等もいるので、コロナ感染防止のため、面会や外出の制限をせざるを得ない状況です。希望される家族等の面会は、感染状況を見ながらガラス越しになりますが行うようにしています。3カ月毎に日常の様子を載せたお便りを家族等に送り、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が関われるテーブルの配置を行い、コミュニケーションが取れる様にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	常時医療の見守りが必要となった利用者のご家族からの相談で、老人ホーム・特養への入所のお手伝いを行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出の希望がありましたが、今年度はコロナウイルスの影響で希望に添えておりません。施設内で食べたいものをお聞きしお弁当にしたり、納涼祭を行う等しました。又、近所への散歩も時々行っています。	食事の前後やお茶の時間等の入居者と職員とのコミュニケーションを大事にしており、その中で希望を聞くようになっています。また日常生活の中で、食べ物や外出先等の話題が出ることもあり、行事や食事内容に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に面談を行い、今までの生活歴や生活環境、グループホームの入所に至る経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタル測定を行い、利用者の健康管理には留意しています。バイタルの様子で、入浴等職員間で情報の共有が出来ています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活の中での課題点を、担当職員を中心に話し合い介護計画に反映しています。	介護計画のサービス内容を記入した用紙に毎日実践状況をチェックしてまとめ、文章化して担当者会議を6カ月毎開き次につなげています。家族へは、介護計画の見直しの時に連絡を取り意見や希望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ほのぼののシステムの個人ケース日々の様子を記録して職員間で情報の共有を図り、介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	看護師が不在の為、排便に関する医療行為などを会社内の他の部署の看護師に依頼しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	昨年までは地域の行事に参加したり、中学校の文化祭に参加しましたが、今年度は中止されており参加できていません。ご近所の美容室利用の方の成人式、七五三等を見させていただき季節を感じて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医に受診、往診を受けています。急変時や、日々の中で異常があれば連絡を取り対応しています。訪問歯科の利用もあります。	以前からのかかりつけ医に家族や職員が付き添って通院しています。往診についても、それぞれのかかりつけ医が来てくれています。家族、かかりつけ医に職員が連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職の日々の関わりの中での気付き等は、その都度社内の看護師に連絡を取り、相談が出来る体制になっています。排便等の医療行為も職場内の看護師が行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者と連絡を取り合い、情報交換は出来ています。入院時のカンファレンスには参加出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設での生活が困難な場合、家族との話し合いは十分に行えています。特に入院、退院時は医療機関と連絡を密に行い、次の施設への移行時は情報を詳しく伝えています。	医療行為が必要になった時やホームでの入浴が困難になった時など、家族等に連絡を取り今後について話し合い、他施設の紹介など相談に応じています。体調や食事量、体重の変化等、日々の様子を見ながら医療機関と連携し、家族にも状況を伝え支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルに沿って対応は出来ています。救急救命訓練を毎年行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	土砂災害・消化避難訓練は実施しています。地区の民生委員の方に施設内を見て頂きました。又、BCP委員会を立ち上げ体制を整えています。	土砂災害について研修し、土砂災害・火災訓練を実施しています。実際の避難場所に入居者を避難させ、みんなで感想を述べあって今後につなげています。事業継続計画に取り組み、土砂災害を想定した避難計画や防災体制が事務所に掲示されています。また地区内の情報伝達訓練にも参加しました。	全国各地で想定外の災害がおきています。BCP委員会の取組をさらに進め、自然災害、感染症対策等、より具体的に充実させることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を行い、社内での接遇委員を中心に声掛けや方法について検討しています。	倫理規程が作成されており、尊厳について・自己決定の尊重・プライバシーの保護等があげられ研修も行っています。接遇や声かけについて具体的に見直しをしています。排泄等の介助はプライバシーに配慮し、本人の希望があった時は同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の細かいことから自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	コロナ禍で利用者の意向が中々反映できていませんが、これから希望に添って外出等行っていきたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝晩のパジャマの着替えを行い、生活にけじめをつけています。洋服を自分で選ん着ている方もいます。美容師の訪問も利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑の野菜が収穫できなくなりましたが、頂いた野菜を洗って頂き、皮を剥くなど出来る事はして頂きメニューに取り入れています。お誕生日日には希望メニューを取り入れています。	プランターで作った夏野菜で、料理や野菜等の皮むき、洗う等、準備や片付けなどできる事を職員と一緒にやっています。訪問日にはおはぎ作り、てんぶらを揚げるなど楽しんでいました。誕生日の希望献立ではちらし寿司や五平餅、そば稲荷等、また行事食も大事にしており、おせち料理は重箱に詰めて提供するなど工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	メニューは栄養士の立てた献立を参考にアドバイスをもらったりバランスを考えて行っています。水分量は午前、午後のお茶の時間を設けるなど確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	社内の歯科衛生士と相談しながら、その人にあった歯ブラシや方法を行っています。週二回は義歯洗浄剤を使用して汚れ防止を行っています。食後三回は口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を記入し、排便の様子を見ています。夜間は歩行状態に応じてポータブルトイレを使用している方もいますが、日中はトイレでの排泄が習慣になっています。	普通の下着の方やリハビリパンツを使用している方等ですが、日中はトイレを使用されています。介助や見守りが必要な方だけでなく、様子を見ながら毎日排泄チェック表に記入して状況を確認しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操を毎日行い体を動かし、水分摂取にも注意しています。野菜の摂取も心掛けていますが、中々便秘の改善には繋がっていません。状況に応じて整腸剤や浣腸を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週4回お風呂を用意して入って頂けるようにしています。肌の弱い方には専用の石鹸を使用しています。	一人ひとり対応しながら週2回は入浴できるように、状況を見て声を掛けています。入浴剤はあわない入居者や、好まない方もいるので使用はしていませんが、ゆず湯・りんご湯を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	目安の時間は設けています。それぞれの生活パターンや自主性を尊重し、遅くまで起きてテレビを観ている方や、しっかり昼寝をする方など、ここでの生活ペースが出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の管理は出来ています。その日の状態の変化は共有し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	居室でテレビを視聴したり、家族の差し入れを居室で食べてもらったりと個々の時間も大切にしています。塗り絵をされる方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ前までは花見や足湯など「行きたい」を取り入れ外出していましたが、今年度は外出を自粛しております。そんな中でも、ドライブだけでもと計画して行きました。天気の良い日には施設の周りを散歩しています。	コロナ感染防止のため、思うように外出できない状況ですが、できる限り散歩にでかけ、お花見ドライブや紅葉狩りなど計画して出かけるようにしています。日曜日の午後は、散歩の時間とするなど意識的に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の方がいますが、今年度は買い物に出かけていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	県外に住む息子さんに手紙を書かれたり、電話を持参され、娘さんや御家族にご自分でかけられている方など様々です。敬老の日にはお孫さんからお花が届きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール共有スペースに季節感の分かるものや花を飾るなどしています。又、今日が何日かわかるよう大きなカレンダーを掛けています。	広いリビングから、ベランダにつるした柿が見え、大きな紅葉の写真が貼られ秋を感じさせてくれます。季節に応じて風景写真を変える、季節の花等を飾るなどの工夫をされています。また、大きな加湿器を上段に設置しており、温湿度計を何箇所につけ室温・乾燥に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った者同士ゲームやパズルをしたり、テレビを観たり思い思いの時間を過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使用していた使い慣れた寝具や家具を、出来る限り持ち込んでもらっています。ご家族の写真なども飾られています。	各部屋には使い慣れた家具や物が置かれています。カレンダーや家族の写真、人形など、それぞれが落ち着いて居心地よく過ごせる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物は機能的な作りで、トイレや浴室、居室がわかりやすい設計にしています。又、居室は名札や花の名前にするなど工夫しています。		